



# 看護部通信

2011年4月号

ようやく春の光がまばゆい季節になりました。朝通院時黄色い帽子の一年生が、母親に手を引かれながら楽しそうに通学している姿や、真っ白なヘルメットをかぶり自転車を降りて、信号待ちしている新中学生の姿を見て微笑ましく思います。通常であれば4月上旬に、全国的に見られる光景ですが、被災地の子供達を思うと胸が痛くなります。反面支え合い、助けられる力の有り難さも感じさせられています。

さて、余震と共に新年度を迎え不安な状況下で、皆さんの団結力に新たな勇気と可能性を確信しながら、看護部の今年度目標を立案しています。まずは「行動することで結果が見える」を優先的に、病棟目標、個人目標を立て、チャレンジしていただきたいと思います。今年度も皆さんの力を借りながらより良い看護が提供できるようによろしくお願いします。

看護管理室

## 看護部のチームワークに感動！！

1病棟 看護師長

3月11日東日本大地震があり、津波による東北地方の甚大なる被害や福島原子力発電所の破損、放射能の流出など多くの被害がもたらされました。当センターのスタッフの中でも友人や親せきの方など震災にあった方もいたのではないのでしょうか？当センターでは、早急に対策本部を設置し対応しました。人海戦術で非常食の夕食配膳やトイレの水を準備するなどスタッフが一丸となり行動することができました。看護部は週末にも関わらず「患者さんのことが心配で！」と出勤するスタッフがいるなど、スタッフ一人一人の温かい協力があって乗り越えることができたと思います。ガソリン不足にはスタッフ同士が声を掛け合い、乗合をするなど工夫し更に強いきずなになったのではないのでしょうか。このような大災害ではありましたが、看護部のチームワークと団結力そしてスタッフの素晴らしさを「身をもって」感ずることができました。当センターでは「心のケアチーム」の派遣を行っており、今後も活動が期待されています。余震や二次災害など予断を許さない状況が続きますが、自分たちができる形で復興への手助けとなるよう皆で頑張りましょう。

## 震災を体験して

1病棟

副看護師長

東日本大震災で秋田でも停電や断水、ガソリン不足や食べ物が買えないなど生活に大きな打撃を与えました。皆様もそうでしょうが、今まで生きてきてこんなことは初めての経験でした。いらぬものは捨てようという風潮で反射式ストーブなんてとっくに捨てた家も多くあったに違いありません。我が家は姑が捨てずに保管していたので助かりました。またガソリンを買うために長蛇の列を作り10Lでも買えてうれしかった。

納豆や卵だって1ケース買えてうれしかったし、食パンを買うために開店前に車を走らせたりもしました。おかげさまで、今はたばこ以外ほとんど手に入ります。ありがたいことです。普段、私たちは物があるのが当たり前な生活していますが今回の経験から今一度、生活を振り返り、生活の在り方を考え直さなければいけないと思いました。ある国の副首相が日本言葉の「もったいない」を大変気に入ったということを知っています。

私たちができる生活の工夫・考えで、できることは沢山あるはずですよ。「もったいない精神」をふるに活かしましょう！

